

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-009
2.研究課題名	日本語版 The Yale-Brown Obsessive Compulsive Scale, Modified for Olfactory Reference Syndrome (ORS-YBOCS) の作成と信頼性・妥当性の検討
3.研究期間	令和 5 年 09 月（倫理委員会承認後）～ 令和 7 年 03 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 本研究の目的は、日本語版 The Yale-Brown Obsessive Compulsive Scale, Modified for Olfactory Reference Syndrome (以下, ORS-YBOCS) の作成とその信頼性・妥当性の検討を嗅覚関連づけ障害 (olfactory reference disorder; 以下, ORD) 症状をもつ群とコミュニティ群の両群において実施することである。ORD とは、不快な強い臭いが認められないにもかかわらず、不快な臭いを放っているというとられを有することを特徴とする精神疾患の一種である (American Psychiatrist Association, 2022)。ORD 症状は個人の精神的健康や社会生活に否定的な影響を及ぼし (e.g. Greenberg et al., 2016; Phillips & Menard, 2011), かつ慢性症状でもあることから (向井・松永, 2021), ORD 症状を有する者に対する支援の必要性が強うかがえる。一方で、国内外問わず ORD に関しては十分な検討がなされていないのが現状である。 検討が十分でない背景の一つには、簡易に ORD 症状を測定可能な尺度が存在しなかったことが関係している。しかし近年、自己記入式で ORD 症状の重症度が測定できる ORS-YBOCS という尺度が Greenberg et al. (2016) によって開発された。ORS-YBOCS は簡易に実施でき、回答者の負担も低い点や、回答者が自身の症状を理解することに役立つ点といった長所が存在している。そこで本研究では、ORD 症状を自己報告した者を対象として、ORS-YBOCS の日本語版を作成することを目的とする。日本語版 ORS-YBOCS の作成により、国内における ORD 症状に関連した研究の発展の一助となることや、臨床現場にて簡易に ORD 症状を測定可能となることが期待される。さらに、本研究では日本語版 ORS-YBOCS の信頼性・妥当性を ORD 症状をもつ群とコミュニティ群の両群において検討することも目的の一つとして設定する。これは、非臨床群も含めたあらゆる ORD 重症度の者を対象として研究を展開していくことの有益性が Ren et al. (2020) によって指摘されている一方で、ORS-YBOCS は ORD 症状を既に有している者の回答を想定して作成されており、非臨床群も含めたコミュニティ群においての適用可能性に関する検討が必要と考えられるためである。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） (1) ORD 症状を自己報告した群の対象者とその決定方法 ORD 症状を自己報告した群の対象者の適格基準は、(1) 18 歳以上であること、(2) 日本語が読めること、(3) 自分の臭いについて、とても悩んでいること、(4) 自分の臭いの悩みについて考えることに多くの時間を費やしており、「考える時間がもっと少なくなればいいのに」と思っていることとする。除外基準は、(1) 医療機関で強い不快な臭いを放つ原因となる疾患に罹患していると診断されていること、(2) 医療機関で統合失調症と診断されていることとする。性別による対象者の選別は実施しない。

	本研究で応募する対象者の人数は 350 名とする。 (2) コミュニティ群の対象者とその決定方法 コミュニティ群の対象者は、18 歳以上の日本語が読める者とする。性別による対象者の選別は実施しない。対象者の人数は 350 名とする。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座 臨床心理学分野 Tel : 022-795-6140
--	---

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）